

Newsletter

2022.3.4

立教大学全学共通
カリキュラム運営センター

「やさしい日本語」で学ぶ「学びの精神」と 「やさしい日本語」を学ぶ「多彩な学び」

丸山 千歌（日本語教育センター長／異文化コミュニケーション学部教授）

「やさしい日本語」とは

皆さんは「やさしい日本語」という言葉を聞いたことがありますか。「やさしい日本語って子どもに向かって話すような日本語ですよね？」と言われることもあります。現代社会に広まりつつある「やさしい日本語」は、語彙、文の長さ、文構造、話すスピード等を調整することによって産出される平易な日本語のことを指します。日本語力が不十分な人とコミュニケーションをとったり、その人たちに必要な情報を提供したりすることができます。

実は、この「やさしい日本語」は、1995年に発生した阪神・淡路大震災の反省を背景に生まれました。ご存じの方も多いと思いますが、阪神・淡路大震災では、日本人住民と比較して、外国人住民の死亡率は約2倍、負傷率は約2.4倍だったと言われています。災害発生の直後は、命を守る重要な情報が多いという状況、またその重要な情報が時々刻々と変化するという状況が生まれます。そのような中で、即時的に多言語で発信することが現場の人にどれほどの負担がかかるかということや、すべての言語に対応するのは難しいといったことへの認識が深まりました。また、災害時にどのような情報発信が有用だったかという調査がなされ、「やさしい日本語」による発信の可能性が確認されました。「やさしい日本語」は、このような中で開発が始まりました。

その後、「やさしい日本語」は、災害時だけでなく、平時でも有用だということが注目され、報道や観光、地方自治体などで導入されるようになります。日本語力が不十分な人への情報発信だけでなく、高齢者やろう者とのコミュニケーションなど活用の幅が広がっていきます。「ユニバーサル・デザイン」という考え方にあてはめると、「やさしい日本語」は、日本語のユニバーサル・デザインへの取り組みだとも言えるでしょう。

この「やさしい日本語」を鍵として、日本語教育センターは、2022年度より全学共通科目総合系科目の「学びの精神」と「多彩な学び」の2つのカテゴリに新しい科目を提供します。これらの科目の新設は本学の国際化の取り組みの一つでもあります。国際化というと、外国語を想起させる事例が多いと思いますが、本学の総合系科目は国際化を推進する科目として、日本語、それも「やさしい日本語」を追加するのです。

日本語教育センターが全学共通カリキュラム運営センターへ提供している科目

言語系科目		総合系科目	
必修	・大学生の日本語A ・大学生の日本語C	学びの精神	・多文化共生社会と大学 ーやさしい日本語とともに学び、ともに生きるー（新設）
	・大学生の日本語B ・大学生の日本語D		
自由科目	・論文作成の技法 ・社会の中の日本語 ・キャリアの日本語A ・ビジネスのための口頭運用力A ・ビジネスメールと文書	多彩な学び	・多文化共生社会と日本 ーやさしい日本語とともに学び、ともに生きるー（新設） ・国際的協働のための国内インターンシップ
	・論文読解の技法 ・日本の社会と文化 ・キャリアの日本語B ・ビジネスのための口頭運用力B		

多文化共生社会と大学－やさしい日本語でともに学び、ともに生きる－

「学びの精神」のカテゴリで開講する科目は、「多文化共生社会と大学－やさしい日本語でともに学び、ともに生きる－」という科目です。

本学は2024年度までに外国人留学生を2,000名（うち1,000名が正規留学生）に拡大する目標を掲げて、従来よりも多様な国・地域から外国人留学生の受け入れを目指しています。その取り組みの一つとして、2022年度にNEXUSプログラムを開始します。入学する留学生は、入学時点では日本語能力試験N3程度で、入学後に日本語能力を向上させながら、全学共通科目や学部の専門科目を履修していきます。日本語能力試験N3程度というのは、日常的な場面での日本語コミュニケーションを行えるレベルですが、専門的な内容や抽象的な話題、論理展開が複雑なものを日本語で受発信するにはさらなる学習が必要なレベルです。そこで、この科目では大学に着地するための学修を「やさしい日本語」で進めます。日本語のユニバーサル・デザインともいえる「やさしい日本語」をツールとして、本学での学びを開始するにあたって、大学で学ぶことの意義、とりわけ、日本の大学、そして立教大学で学ぶことの意義を理解し、大学で学ぶための姿勢を身に付けます。大学での学びの姿勢には、当然、日本語が母語の学生、日本語が上級レベルの学生とも共に学び成長することが期待されますので、そのための姿勢、行動が伴うよう、実践を取り入れた学修を、入学第1学期に進めます。

多文化共生社会と日本－やさしい日本語でともに学び、ともに生きる－

「多彩な学び」のカテゴリで開講する科目は、「多文化共生社会と日本－やさしい日本語でともに学び、ともに生きる－」という科目です。前述のとおり、「やさしい日本語」というツールを使いこなせる人が力を発揮する場は、観光、公共放送、地方自治体、医療現場など、場所や領域が広がっていますので、「やさしい日本語」を知る、理解するだけでなく、ある程度使える人材として社会に出ることによって、多文化共生社会の実現に貢献するという社会的な意義も生まれます。

ですので、この科目を履修する学生は、「やさしい日本語」について理解を深めるだけでなく、「やさしい日本語」が使えるようになるためのスキルも学びます。そして、日本国内の日本語母語話者（言語的マジョリティ）、日本国内で生活する日本語上級者（生活に不自由を感じていない者）として、①日本における多文化共生の在り方や国内の大学の役割について考察し、多文化共生社会とはどのような社会かをやさしい日本語で説明できるようになる、②ヨーロッパやアメリカ、アジアの国々と日本の多文化社会への取り組みを比較し、それぞれの特徴を知ることによって、日本に暮らす多様な人々が真の意味で共生していくことを可能にするためには、日本に暮らす言語的マジョリティがどのような態度を持ち、どのように行動していくべきかを、やさしい日本語で表現できるようになる、さらに、③そのような日本の多文化共生社会の実現のために、日本の大学は何をすべきかについて考え、やさしい日本語で提案できるようになることが期待されます。この科目を通して、「やさしい日本語」の運用能力を高め、具体的で基本的なやさしい日本語表現だけでなく、抽象的な事柄もやさしい日本語で伝えることを目指します。実践を伴う学修は、やさしい日本語の有用性だけでなく、日々使用している日本語表現の豊かさやその意味について改めて考えることにもつながり、自身の言語観を広げる機会にもなると思います。

一体的に展開される2つの科目

「やさしい日本語」を鍵とした2つの科目の設置にはもう一つ特徴があります。それは「多文化共生社会と大学」と、「多文化共生社会と日本」とが一体的な授業として展開されるということです。

本学が描く「専門性に立つグローバル教養人」には、変革力（人、情報、文化、価値観などが国境を越えて流動化している社会に柔軟に対応し、新しい仕組みを生み出していく力）、共感力・協働力（豊かなコミュニケーション力を基礎とし、異なる文化・習慣を持つ人々と共に課題を解決していく力）、思考力（環境問題、民族・宗教紛争などの地球規模の困難な課題に正面から向き合い問題の本質を理論的に解明する力）が備わっています。よく見て、考えることができるだけでなく、協働し、変革を起こすための姿勢や行動が備わった人物像です。

2つの科目を一体的に運営することで、教室に言語の調整が必要となる設定が生まれ、履修学生は「やさしい日本語」の実践を繰り返します。そして「やさしい日本語」の利便性、可能性、そして課題を感じながら、本学で学ぶ意義を考え、多文化共生社会についての議論を深める中で、多様な人となつがり、学び、生きていくための姿勢や行動力を身に付けます。

この科目の案内は、各学部の履修要項で確認できます。キャンパスにある国際的な環境を十分に生かした、特徴ある科目の一つになりますので、ぜひ学生たちに履修を促していただければと思います。

日本語教育センターは、年に1回、日本語教育センターシンポジウムを開催しています。2021年度は外国語教育研究センターとの共催で、「グローバル化時代の言語教育を考えるーグローバル・コンピテンス育成の視点からー」というテーマを取り上げました。言語教育がグローバル・コンピテンスの育成にどのように貢献しているか、また本学の言語教育でどのような実践がなされ、今後どのような発展の可能性があるかを議論しました。今回ご紹介した「やさしい日本語」関連科目も言語教育の一部に位置付けて説明し、議論を深めました。当日の様子は下記の文献リストに挙げた報告冊子でご覧いただけます。本学学術リポジトリからもアクセスできますので、よろしければお読みください。

参考：

- ・東京都オリンピック・パラリンピック準備局「「やさしい日本語」について」『多言語対応協議会ポータルサイト』（2014）
<https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/multilingual/references/easyjpn.html>
- ・日本放送協会「「やさしい日本語」を知っていますか。国がはじめて調査」（2020）
<https://www3.nhk.or.jp/news/easy/k10012634981000/k10012634981000.html>
- ・弘前大学人文学部社会言語学研究室 減災のための「やさしい日本語」研究会「「やさしい日本語」が外国人被災者の命を救います」（2016）
<https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/multilingual/references/pdf/160705forum/a-6.pdf>
- ・文化庁「令和元年度「国語に関する世論調査」の結果の概要」（2020）
https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/pdf/92531901_01.pdf
- ・立教大学「育成する人材像」『Rikkyo Global 24』（2014）
<https://www.rikkyo.ac.jp/global24/talent/>
- ・立教大学日本語教育センター「新しい日本語教育を考える No.11 グローバル化時代の言語教育を考えるーグローバル・コンピテンス育成の視点からー」（2022）
https://rikkyo.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main

2021年度 全学共通カリキュラム運営センターの主な活動

※2022年2月現在。3月に開催されるものについては全て予定です。
※*印はオンラインで実施・開催されたものです。

<言語系科目構想・運営チーム>

①英語教育研究室

- ・4月2日（金）春学期FDセミナー*
- ・9月4日（土）秋学期FDセミナー*
- ・9月30日（木）～11月30日（火）
英語自由科目カリキュラムアンケート実施*
- ・英語力伸長度測定テスト（TOEIC IP）実施*
1年次対象：春学期（プレースメントテスト）4月1日（木）、秋学期 12月17日（金）～28日（火）
2～4年次対象：春学期 4月3日（土）～11日（日）、秋学期 12月4日（土）～7日（火）
全学年対象：春学期 6月5日（土）～8日（火）、
秋学期 10月16日（土）～19日（火）

②ドイツ語教育研究室

- ・7月28日（水）春学期担当者連絡会*
- ・2月25日（金）秋学期担当者連絡会*

③フランス語教育研究室

- ・7月2日（金）春学期担当者連絡会*
- ・12月11日（土）秋学期担当者連絡会*

④スペイン語教育研究室

- ・4月6日（火）・7月28日（水）春学期担当者連絡会*
- ・12月17日（金）・1月29日（土）・2月28日（月）
秋学期担当者連絡会*

⑤中国語教育研究室

- ・5月1日（土）春学期担当者連絡会*
- ・9月18日（土）秋学期担当者連絡会*

⑥朝鮮語教育研究室

- ・7月28日（水）春学期担当者連絡会*
- ・2月3日（木）秋学期担当者連絡会*

⑦諸言語教育研究室

- ・12月13日（月）ロシア語担当者連絡会*

<総合系科目構想・運営チーム>

- ・4月6日（火）スポーツ実習科目担当者連絡会*
- ・7月30日（金）2021年度第2回総合系科目担当者連絡会*
- ・3月11日（金）2022年度第1回総合系科目担当者連絡会*

<授業評価アンケート関連>

【2020年度「学生による授業評価アンケート」関連】

- ・2020年度「学生による授業評価アンケート」学部等総評の作成

【2021年度「学生による授業評価アンケート」関連】

- ・2021年度「学生による授業評価アンケート」*
言語系科目実施科目数：春学期650科目、秋学期688科目、計1338科目
総合系科目実施科目数：春学期209科目、秋学期142科目、計351科目
・スポーツ実習「授業評価アンケート」実施*

<シンポジウム>

テーマ：データサイエンス教育の現状と展望

—Society 5.0の時代に向けて—

日 時：2021年11月26日（金）オンライン開催

プログラム：

◆講師：

- 山口 和範 氏（立教大学経営学部教授／社会情報教育研究センター統計教育部会リーダー）
- 村上 祐子 氏（立教大学人工知能科学研究科・文学部教授）

◆コメンテーター：

- 井川 充雄（立教大学社会学部教授／全カリ運営センター部長）

◆司会

- 石渡 貴之（立教大学コミュニティ福祉学部教授／全カリ運営センター総合系科目構想・運営チームメンバー）

*本シンポジウム筆録は「大学教育研究フォーラム」第27号（2022年3月発行予定）に掲載

全カリニュースレター No.52

発行 2022.3.4

発行人 井川 充雄

編集人 松本 旬子、眞島 恵介

発行所 立教大学 全学共通カリキュラム運営センター